

令和2年度釧路管内教育推進マップ・3S（サポート）について

はじめに

はじめに、本日お集まりの皆様方には、
日頃から、釧路管内はもとより本道の教育の充実に
お力添えをいただきまして、
心より感謝申し上げます。

今年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、
各種イベントなども軒並み中止となるなど
異例な状況が続いておりますが、
学校においては卒業式や入学式についても、
参加者を限定したり、式を簡略化したりなど、
参加を楽しみにしていた
子どもたちはもとより保護者などに対しても
いろいろと我慢を強いる形となり、
教育局としても大変残念な気持ちであります。

そうした中ではありますが、皆様方には、
2月中旬から続いております、
新型コロナウイルス感染症の対応について、
一斉臨時休校や分散登校の対応、
4月に入ってからは、学校再開に向けての対応など、
なかなか先が見通せない中で、
適切に対応いただきまして感謝申し上げます。

こうした関係者の努力により、釧路管内はもとより、
道内のほとんどの公立学校でも
新学期から学校を一時再開することができましたが、

道内においても、札幌圏において感染者の増加が続くなど、
危機的な状況にあることから、知事からの要請に基づき、
公立の小・中・高等学校、特別支援学校を対象とした
一斉臨時休業の措置が4月20日から5月6日まで、
行われることになりました。

道教委から各学校等に対して、
臨時休業中の登校日の設定や、
学校再開後の対応について
通知している（4月20日付け通知）ところですが、
通知の趣旨を踏まえて適切に対応いただくようお願いいたします。

また、この場を借りて一言お話をさせていただきたいことがあります。
皆様方も御承知のこととは存じますが、4月4日未明に
北海道教育委員会教育長であった佐藤 嘉大 氏が急逝されました。

故佐藤教育長には、昨年は、移動教育委員会で釧路管内を
訪問いただいたり、新型コロナウイルス感染症への対応において、
分散登校の実施や学校再開に向け、陣頭指揮を執っていただきました。

そうした中での突然の訃報であり、
本人もさぞや無念であったと思いますが、我々も喪失感が大きいです。ただ、いつまで
も悲しんでばかりはられないので、
教育局としても故佐藤教育長の意思を引き継ぎ、北海道教育、
管内教育の充実に向け、今後とも全力で取り組む決意でありますので、
よろしく願います。

それでは、令和2年度釧路管内教育推進の重点について、
説明申し上げます。

昨年度からの変更点を中心にポイントを絞って説明します。
なお、特にご理解いただきたい
部分については、具体を交えて説明します。
お手元に配付しております資料を御覧ください。

今年度の推進マップ・重点項目は、
本年3月に改定された「北海道教育総合大綱」の内容を
参考にするとともに、
昨年度の取組状況等について、各校の評価結果を踏まえた上で、
教育局と各市町村教育委員会（指導室）が
連携して課題等を検証しながら内容を検討し、作成したものです。

1 令和2年度「釧路っ子の『学び』を支える管内教育推進マップ・3S（サポート）」

まず、1枚目の一番下にある

「北海道教育の基本理念」についてですが、
改定された「北海道教育総合大綱」の3つの基本理念である
「チャレンジで夢を叶える」
「ふるさとを誇り、自ら動く」
「個性や違いを力にかえる」を反映した形で、
「北海道教育の基本理念」の部分に記載しました。

また、大きな変更点としましては、
後ほど、2枚目の重点項目の所でも説明いたしますが、
学校における働き方改革を推進することが、結果的に
子どもへのサポート、学校へのサポートの実現に
大きくつながることになりますし、
管内においても働き方改革の推進が喫緊の課題でもありますので、
「学校における働き方改革の推進」をマップの中心に位置付けるとともに、
2枚目の重点項目の柱にも位置付けております。

マップの1枚目の主な変更点は以上です。

2 令和2年度管内教育の重点項目

2枚目の重点項目を御覧ください。

タイトルの所に記載している、
キーワードも昨年度のマップから変更しました。
昨年度は、「深める」・「つなげる」としていましたが、
今年度は、「つなげる」・「確かめる」としました。

新たなキーワードである「確かめる」は、
学習指導要領の全面実施の時期であり、
これまでの取組を着実な内容とするため、
一つ一つ成果や課題を確かめながら検証し、
よりよいものに改善していくといった趣旨から、
新たなキーワードとしたものです。
この2つのキーワードに基づき、
管内教育の更なる充実を目指していきたいと考えております。

(1) 「『子ども』へのS(サポート)」について

それでは、まず、はじめに、
左側の「『子ども』へのS(サポート)」について説明します。

「社会で生きる力」、「豊かな人間性」、「健やかな体」の
3つの重点の柱は昨年度と同様です。

1つ目の柱である「社会で生きる力」については、
技術革新やグローバル化など変化の激しい社会を
子どもが生き抜くために必要な資質・能力として
「①未来を拓くために必要な資質・能力」の育成など
3項目としています。

この部分の変更点としましては、
昨年度までは、①と②の2項目でありましたが、
道教委の令和2年度教育行政執行方針にあわせて、
「③ふるさとを支える人材」の育成を位置付けております。
※昨年度は「豊かな人間性」に位置付けていた。

「①未来を拓くために必要な資質・能力」の育成に向けて、
ポツの一つ目、二つ目に記載している
学力向上は大きな課題でありますので、具体的に説明いたします。

小・中学校においては、
昨年度の全国学力・学習状況調査の結果から、
管内全体としては改善傾向にあるものの、
中学校においてはなかなか学力の向上が図られないことや
下位層の割合が改善しないこと、

高等学校においては、
卒業後の学習や社会生活に必要な資質・能力を
一層育成する必要があることなど、

更なる学力向上に向け、
全国、全道レベルの客観的な各種調査を活用しながら、
子どもの学力や学習状況を適確に把握し、

検証改善サイクルに基づく継続的な取組や、
新学習指導要領の趣旨を踏まえた

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を
学校全体で推進していただくよう、
お願いいたします。

管内教育推進の重点の評価結果において、
「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に関する
項目の評価が低い結果となっておりますので、
今後一層の取組が必要であると考えております。

教育局といたしましては、小中学校に対しましては、
釧路管内学力向上ロードマップに基づき、
成果や課題を検証するなど、
検証改善サイクルを確立した上で、
学力向上の取組をより一層推進してまいります。

具体的には、
全国学力・学習状況調査の実施を受け、
自校採点結果の集計を踏まえた授業改善に係る指導資料の作成や
組織力強化会議を開催するなどして、
管内全体で学力向上を図っていきたいと考えております。

なお、小・中学校において毎年実施されている
全国学力・学習状況調査については、
新型コロナウイルスの影響等により
今年度は実施されないことになりました。

ただし、問題冊子等は各学校等に送付される予定と
伺っておりますので、その有効活用については、
今後、道教委から考え方を示す予定です。
各学校においては、問題冊子等を適切に活用していただくよう、
お願いいたします。

また、高等学校においては、
湖陵高校で実施していただいている

「スーパーサイエンスハイスクール」の指定事業や
今年度から江南高校で実施する
総合的な探究の時間に係る国の指定事業等の
成果の普及にも努めてまいります。

さらに、
今年度から厚岸町立真龍小学校、真龍中学校、
厚岸翔洋高等学校で取り組んでいただく
子どもが主体的にコミュニケーションを
図ることができる資質・能力を育成するため、
10年間の系統的な英語教育の指導体制を整備することを
目的とした指定事業
「小・中・高等学校英語教育支援事業」の支援に努めるなどして、
管内全体で英語教育の充実を図ってまいりたいと考えております。

また、ポツの三つ目についてですが、文科省による
GIGA スクールネット構想の動きがあること、
また、道教委が今年度実施方法を検討し、
来年度から本格実施する高等学校における遠隔授業の配信の動きがあることなどから、
ICT を活用した授業づくりが
今後一層求められている状況などを踏まえて、
「ICT 等を活用した授業改善など教育の情報化の推進」を
新たな項目として位置付けております。

次に、「②社会的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力」の
ポツの一つ目に記載の部分ですが、
特別支援教育の観点から
インクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、
一人一人の教育的ニーズに応じた指導や支援の充実を図り、
学校と家庭、地域、関係機関等による
連携体制を深めるなど、
切れ目のない推進体制の充実を図ることが大切であります。

釧路管内には、3校の特別支援学校がありますので、
特別支援学校におけるセンター的機能を発揮していただき、
「特別支援教育パートナーティーチャー派遣事業」を

実施するとともに、教育局の巡回相談なども活用するなどして、特別支援教育の充実を図ってまいりたいと考えております。

また、ポツの二つ目に記載の部分については、子ども一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育てるため、地域と連携し、学びの必要感、目的などを意識したキャリア教育の充実に取り組んでいただくよう、お願いいたします。

「③ふるさとを支える人材」の育成については、地域への誇りと愛着をもち、地域の将来を担う人材を育むため、地域づくりに主体的に参加したり、地域の問題を考えたりする学習活動を計画的に行うなど、発達の段階に応じたふるさと教育の充実を図っていただくようお願いいたします。

教育局といたしましては、引き続き「北海道ふるさと教育・観光教育推進事業」の普及に努めるほか、浜中町、厚岸翔洋高等学校で取り組んでいただいている、地域産業について学ぶふるさと教育の指定事業である「海洋教育パイオニアスクールプログラム」の取組を広く普及していきたいと考えております。

2つ目の柱である「豊かな人間性」についてです。昨年度も「①豊かな情操や道徳心の育成」と「②コミュニケーション能力の育成」の2つの重点項目を位置付けておりました。

「①豊かな情操や道徳心の育成」では、これまでも取り組んでいただいている地域人材も活用した読書活動や地域素材を取り入れた様々な体験活動をねらいを明確にした上で、計画的に位置付けていただき、その活動を通して、子どもの自己肯定感や他者を思いやる心を育むなど、豊かな人間性の形成を進めていく必要があると考えております。

ポツの二つ目に記載の道徳教育については、
小・中学校では、教科化に伴い、
教科書を使用した指導が実施されておりますが、
全ての学校において、
教員の指導力の向上を図るため教育局が
昨年度作成した指導資料「Heart of heart」を活用し、
評価の在り方等を含めて、
道徳科の授業づくりの充実を図るよう
校内研修を組織的・計画的に行うなど、
「考え、議論する道徳」の実現をお願いいたします。

また、高等学校においては、
小・中学校と連携し、円滑に学びが繋がるよう
道徳教育推進教師を効果的に活用し、
一層、学校全体で道徳教育を推進していただくようお願いします。

「②コミュニケーション能力」の育成については、
言葉を通して、豊かな心を育むことや
望ましい人間関係を築くことができるよう、
各教科等における言語活動の充実を図るとともに、
コミュニケーションを通して人間関係を築き、
いじめなどを解消することが大切であると考えております。

特に、いじめについては、どこの学校にも起こりうるという
緊張感をもって、国の法令や指針、
「北海道いじめの防止等に関する条例」等を踏まえ、
いじめの未然防止、早期発見・早期対応に向け、
教育相談体制の整備・充実をお願いいたします。

さらに、急増する児童虐待についても、
早期発見・早期対応に努めていただき、
児童相談所などの関係機関と連携し、
子どもの安全を守っていただくようお願いします。

3つ目の柱である「健やかな体」についても、
昨年度と同様に

「①体力向上を通しての健康の維持、精神面の充実」と
「②健康な生活を実践する資質・能力の育成」を
2つの重点項目にしておりますが、
①に関しては、全国体力・運動能力、運動習慣等調査や
新体力テスト等の結果を基に、
子どもの体力・運動能力等の状況を把握し、
継続的な検証改善サイクルの推進や、
体育・保健体育授業の改善を図るようお願いします。

なお、全国体力・運動能力、運動習慣等調査につきましても、
新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりましたが、
昨年度の調査結果や
子どもの体力等の状況を踏まえ、
「1校1実践」の取組の充実を図るなど、
計画的な取組をお願いします。

また、教育局といたしましても、
釧路市、鶴居村で実施していただいている
「体育専科教員活用事業」の成果の普及に努め、
管内全体で体力向上を図っていきたいと考えております。

また、「②健康な生活を実践する資質・能力」の育成に向けては、
子どもが生涯にわたって
健康な生活を送ることができるよう、
適切な意思決定や行動を選択する力を育むことが大切です。

そのため、現在、大きな社会問題となっている
感染症の予防に関する教育の充実や
若者の薬物事案が発生していることを踏まえ、
薬物乱用防止教室の実施、
フッ化物洗口などの保健管理に関する教育の充実、
さらには、基本的な生活習慣や
食に関する正しい知識と望ましい食習慣を
身に付ける食育の推進にも取り組んでまいります。

(2) 「『学校』へのS(サポート)」について

続いて、「『学校』へのS(サポート)」についてです。

まず、先ほども申しあげましたように、今年度は、柱の一つとして「学校における働き方改革の推進」を新たに加えました。

学校における働き方改革を着実に推進することが管内教育の一層の充実を図るための重要なポイントであり、校長のリーダーシップの下、タイムカードや校務支援システム等を活用した在校時間の客観的な把握に努めるなど、北海道アクションプランの取組を推進するとともに、本年3月に作成された「北海道の学校における働き方改革手引(Road)」を活用した取組を行っていただくほか、さらには、中学校や高校では「学校の部活動に係る活動方針」の徹底など、質の高い教育を実現するための「働き方改革の推進」をお願いします。

他の4つの柱は昨年度と同様であります。2つ目の柱である「マネジメント機能の強化」については、「②教職員の力が発揮できる環境づくり」を大きく変更したところです。

この後の時間に説明しますが、教育局では、現在、教育委員会や校長会等と連携し、(仮)「釧路管内小中学校管理職員等候補者育成方針」の策定を検討しているところであり、予定では本年6月頃に策定する見込みです。

今年度から、この育成方針に基づき、釧路はもとより本道の将来を担うミドルリーダーや管理職候補者の育成に取り組むとともに、女性教職員の活躍推進に向けた取組も推進していきたいと考えております。

道立学校におかれましても、
女性教職員の活躍推進に向けた取組をはじめ、
教職員のキャリアステージに応じた働きかけをお願いします。

次に3つ目の柱である「教職員の資質・能力の向上」については、
子どもと直接向き合う教職員は、
何よりも自らの専門性を高め、
真摯に自身の資質・能力の向上に努めることが求められます。

「①学びの質を深める指導力の向上」と
「②『チームとしての学校』の実現」の2つの重点項目は
昨年度から変えておりませんが、

「①学びの質を深める指導力の向上」の
ポツの一つ目の記載については、
「北海道における教員育成指標」などを活用し、
キャリアステージに応じた研修の充実を図り、
これからの教育を担う人材の育成を
進める必要があると考えております。

また、ポツの三つ目の記載の部分になりますが、
子どもに社会で生きる力を育むため、
新学習指導要領の実施に当たって、
学習評価の取組はもとより
外国語教育やプログラミング教育などの情報教育の充実、
ICTを活用した分かる授業づくりなど、
教員の指導力の向上に向け、
教員研修の充実を図ってまいりたいと考えております。

また、「②チームとしての学校』の実現」に向けては、
校長先生の強いリーダーシップの下、
事務職員等も含めた教職員の役割分担を明確にし、
それぞれの専門性を発揮させ、全教職員が目標を共有し、
連携・協力しながら、学校経営・学校運営を行うなど
組織マネジメントを適切に行う必要があります。

このため、校長先生を中心に、
副校長、教頭、主幹教諭、事務長、事務職員など
全教職員を巻き込んで
学校全体で組織力を高める取組をお願いします。

この点については、小中学校における道教委の指定事業として、
「学校力向上に関する総合実践事業」を平成 24 年度から釧路町で、
また、平成 28 年度からは釧路市で
取り組んでいただいておりますが、事業の成果を
義務教育指導監や指導主事の学校訪問等で
広く普及していきたいと考えております。

なお、今年度からは、事業形態が一部変更され、
従来型の「学校指定」に加え「地域指定」が導入されました。

「地域指定」としては、釧路市において中学校区を単位とし、
校区の学校が連携協働しながら
学校力を高める取組を推進していただくこととなっております。

将来的には「学校指定」から「地域指定」に形態が
移行されていくものと想定されておりますので、
「地域指定」での取組につきましても
市教委や指定校とも密接な連携の下、
事業の成果や課題を分析、検証し、
発信していきたいと考えておりますので、
各学校においては、参考にするようお願いいたします。

次に、4 つ目の柱である
「危機管理体制の強化」に関わっては、昨年度までと同様
子どもの安全・安心の観点と
教職員の服務規律の観点から二つの重点項目を設定しています。

「①子どもの安全・安心の確保」について、
ポツの一つ目の記載の部分になりますが、
学校管理下や登下校中の事件・事故や災害の発生が
後を絶たないことから、
防犯訓練や交通安全等の取組の一層の充実を図っていただくようお願いいたします。

特に自然災害への対応に関わっては、4月21日に、内閣府の有識者会議が千島海溝沿いの巨大地震による津波の高さや到達時間の想定を公表したところであり、それによると、最大マグニチュード9.3クラスの巨大地震が発生した場合、管内の太平洋沿岸の地域では、最大震度が7となり、釧路市や釧路町などの1市4町では、20メートル以上の大津波が短時間のうちに押し寄せるとの予測がされています。

管内においては、そうした甚大な被害が予想される中、昨年の10月には、東日本大震災における大川小学校の最高裁判決において教育委員会や学校長の事前の防災体制の整備に係る過失認定が行われているところでありますので、各学校においては、防災部局など関係機関と連携しながら危機管理マニュアルを不断に見直ししていただくなど防災体制の強化に万全を期していただくようお願いします。

また、小・中学校では「一日防災学校」や地域と連携した避難訓練の実施など、地域の実態に即した災害への対応について子どもが主体的に考え、適切に行動する力を育む機会の充実を図るようお願いします。

さらに、今回の新型コロナウイルス感染症への対応や若年層の死亡原因の1位を占める自殺を予防するためには、子どものメンタルヘルスに関する教育の充実を図るとともに、全ての子どもにとって安全・安心で、信頼できる居場所や絆づくりを進める必要があると考えており、引き続き、子どもの安全を守る取組を組織的に進めていただくようお願いします。

次に「②サービス規律の保持・徹底」については、昨年度も当管内において、地域はもとより保護者や子どもたちの信頼を裏切るような教職員の不祥事が、引き続き発生しており、

特に、初任段階教員における事故が複数件発生するなど、大変憂慮すべき状況にあります。

教育局といたしましては
「管内コンプライアンス確立会議」等の開催を通し、
改めて学校に不祥事防止の取組について
確認することとしておりますが、
皆様方には、
初任段階教員への指導はもとより、自校の全ての教職員に対し、
法令遵守や服務規律の徹底について
機会あるごとに粘り強く指導していただくよう、お願いします。

次に、5つ目の柱である「学校段階間の連携・接続の推進」については、
昨年度と同様に二つの重点項目を設定していますが、
「①連続性のある教育活動の充実」として、
幼保、小・中・高等学校において、
それぞれの学校段階で身に付ける
資質・能力が確実に育まれ、
子どもの育ちが円滑につながっていくよう、
相互に連携し、
子どもの学びや育ちの情報共有、
指導方法の交流などをお願いします。

(3) 「『家庭・地域』へのS(サポート)」について

最後に、下段に記載の「『家庭・地域』へのS(サポート)」についてです。

学校が抱える課題の解決や地域全体で子どもの成長を支え、
地域を創生するため、昨年度と同様に
「学びを支える家庭・地域」、
「学びを活かす地域社会」の2つの柱を
重点項目としております。

特に1つ目の柱である「学びを支える家庭・地域」においては、
「①地域とともにある学校づくり」に向け、
ポツの一つ目に記載のとおりコミュニティ・スクールの導入や
「地域学校協働活動」の推進により、

学校と地域の双方向で

子どもを育てる体制を進めることが大切です。

コミュニティ・スクールについては、小中学校においては、昨年度時点で、全ての市町村で1校以上導入されております。今後、一層の取組の充実を図っていただくようお願いします。

また、特別支援学校においては、今年度から2校で導入されることになっており、今後、地域と連携した教育活動の充実が図られることを期待していますが、円滑に導入されるよう、よろしくお願いします。

「③幼児教育の充実」に関わっては、全ての幼児教育施設において質の高い教育が提供できるよう、昨年度設置された幼児教育センターによる「幼児教育相談員派遣事業」の実施などを通じて、研修等の機会の充実を図ってまいります。

次に、2つ目の柱である「学びを活かす地域社会」では、「①活力ある地域づくりの推進」として、釧路管内の誇る自然や人材など、地域における教育資源を活用した組織的な教育活動の推進を位置付けています。

また、社会教育施設の利用については、今年度、白老町にアイヌの人たちの歴史や文化について学んだり体験したりすることができる「ウポポイ（民族共生象徴空間）」が開設される予定ですので、修学旅行等で積極的に活用していただきたいと考えております。

以上、今年度の管内教育の推進に当たり、「子ども」「学校」「家庭・地域」の3つの視点から、特に理解していただきたい内容について、説明をさせていただきました。

なお、資料の3枚目〈別添〉として、
「主な各種事業等と重点項目との関連」を添付しておりますので、
各種指定事業の活用を通して
学校改善を図っていただくとともに、
それぞれの事業の成果を自校の取組の参考にしていただくなど、
戦略的な活用をお願いいたします。

終わりに

ただ今、説明した管内教育推進マップ及び
重点項目につきまして、目標やねらいを達成するためには、
それぞれの地域の実態を踏まえながら、
管内8市町村や、各学校及び教育局が思いを共有し、
一体となって取り組んでいくことが何よりも大切であると考えております。

このため、今年度もマップに掲げる項目につきまして、
各学校の学校経営に係る方針・ビジョン等に反映いただき、
着実に取り組んでいただきたいと考えておりますので
どうぞよろしくをお願いいたします。

私からの説明は以上で終わらせていただきます。